

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 詩編 125:1~2	讃 美 歌 510 まぼろしの影を追いて
讃 美 歌 12 めぐみゆたけき主を	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 箴言 11:1	主の祈り 564
マルコによる福音書 9:20~29	頌 栄 539 あめつちこぞりて
讃 美 歌 527 わがよろこび、わがのぞみ	祝 禱
説 教 『信仰はおもりの石』	後 奏

そんな時代だったのか、若かったからか、「神はいるのか、いないのか」という議論を、ひと晩中でもしていた。私はほぼ無神論の立場で、サルトルや吉本隆明を引きつつキリスト者とやり合った。だがどういうわけか、私が牧師になってしまった。それでは有神論に転向したのか、と問われればそう違わない気がする。今でも「神存在」の有無にはさして関心がない。ただイエスという方として世に現れた「何」か、折々に私たちに働きかけて来る何か、が私にとっての一大事としてある。

群衆の中の父親がイエスに言った。「霊がこの子に取りつくと、所かまわず地面に引き倒すのです〜この霊を追い出してくださるようにお弟子たちに申しましたが、できませんでした(マルコ9:18)」。

それで弟子たちはどうしたか。群衆の中で律法学者らと議論していた(9:14)。議論している場合かよ、と思うが、弟子たちは学者らの信仰問答に引っ張られて、これ幸いと「現場」から目を背けた。「なんと信仰のない時代なのか(9:19)」と呆れられた弟子たち。自分にも手痛い心当たりがある。「信仰」とは、神の存在証明でも、神の御心の現れでも、神の御計画に関する問答でもない。教えを相対化して現実から「逃れる」ことではない。その現実のただ中にいて、誠実に、真摯に「祈る(9:29)」ことだ。

人々が息子をイエスの所へ連れて来ると、霊は「すぐにその子を引きつけさせた。その子は地面に倒れ、転び回って泡を吹いた(9:20)」。

現代なら癲癇の類と診断されるかもしれないが、幼い時からの病状で(9:21)、父親は息子の治癒を半ば諦めていた。弟子も癒せなかったし、イエスにも無理かもしれない、と懸念しながら言った。「おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください(9:22)」。

すると即座に「イエスは言われた。〔できれば〕と言うか。信じる者には何でもできる(9:23)」。

父親は弾かれたように「信じます。信仰のないわたしをお助けください(9:24)」と叫んだ。

「信じます、信仰のないわたし」。矛盾するような表現、これこそ信仰告白ではないか。「〔できれば〕と言うか」というイエスの叱責は、救いの言葉であった。わが子が「何度も火の中や水の中に投げ込まれ(9:22)」て来た父親として、苦しみから解き放たれる不器用な信仰告白。「信じます、信仰のないわたしをお助けください」。イエスの業によって(9:25)、息子は長年の病から回復する(9:27)。「信じる者には何でもできる(9:23)」とはイエスの信仰だが、そこには父親の「信仰」も重なっているように思われる。「信じます。信仰のないわたしをお助けください」。信仰とは、自分が「不信仰」であることの自覚。また観念に傾きやすい信仰も、目の現実においては、キリストの信仰と一つになる。

「偽りの天秤を主はいとい、十全なおもり石を喜ばれる(箴言 11:1)」。

あの時、弟子たちは「大勢の群衆に取り囲まれて、律法学者と議論していた(マルコ9:14)」。

人々の前で口泡を飛ばし、イエスの教えの「義さ」を真剣に訴えていた。ただそんなことは「偽りの天秤」。現代の私たちは、教義とか教会の伝統とかの比較(天秤)に惑わされる。しかし重要なのは、その時、その場での「十全なおもり石」だ。

「信じます。信仰のないわたしをお助けください(9:24)」。

私たちはこうした混沌から出発する。謙虚さと言うより、現実と真剣に向かい合うことで、私たちの信仰は、キリストの信仰と一つになる。

キリストと一つである信仰 不信仰であることの自覚と幸い 「無信仰」ならただそれだけのこと 不信仰はキリスト者ゆえの機会 矛盾からキリストの信仰と混じり合う 信仰が動き出すきっかけ

11/2(日)礼拝直後に臨時教会総会を開きます(30分程度)。本日礼拝後は役員会、カレーの日、どなたでも遠慮なくお召し上がりください。10/8(水)エステル会。10/11(土)1:30~3:00 聖研・祈祷会。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。